新聞掲載記事

2012年(平成24年) 10月 17日 水曜日 周 山奇 桑斤

連携共同教育



グローバル人材育成のため連携する各大学の学長たち =長崎市文教町、長崎大

できる人材の育成を目指す。 学生との共修、協働を通じ国際的に活躍 グローバル人材育成事業が選ばれた。留 育推進事業」に、県内10大学が取り組む 目的とする文科省の「大学間連携共同教 大学の連携を通じた教育の質の向上を

ら募集し49件が選定され される。2013年度以降 た。本県の事業期間は5年 の入学生が対象となる。 で年間6600万円が補助 各大学の学生から希望者 | 生かしながら世界で活躍で 全国の国公私立大などか

学力向上に加え一緒に活動 に関する共修科目をグル 史と文化」「キャリア教育」 を受けるほか、1年次に各 くる。学生は外国語の授業 10人ほどのグループをつ ンターンシップも計画。語 ープで受ける。2年次はイ 大学で開講する「長崎の歴

見で、片峰茂学長は「大学 の垣根を越え、得意分野を 16日に長崎大であった会 を募り、日本人と留学生の

することで国際感覚を養 職種の協働で専門的な技能 |県内4自治体と連携し合同 業(5年間、年間6100 看護協会など12団体に加え 選定された。県医師会や県 万円の補助)も推進事業に 緩和ケアを担う人材育成事 授業や実習を実施。幅広い

2012年10月17日長崎新聞

ーバ ルな

期待を述べた。 | きる人材を育成したい」と 崎国際大の在宅がん医療・ を持つ長崎大と県立大、長 看護や薬学に関する学部

を持つ人材の育成を目指

(荒木竜樹



2012年10月17日西日本新聞

12年度の文部科学省の み作りをする新事業が 根を越え留学生と日本 見を開き、大学間の垣 16日、長崎大で記者会 る全10の大学・短大は 人学生が共に学ぶ仕組 県内の全大学・短大が連携 長崎大など県内にあ 留学生と共学へ 計約300人を対象 当たり日本人と留学生 たと発表した。1学年 推進事業」に採択され 実施する。 「大学間連携共同教育 に、来年の入学生から 長崎大などによる 文科省が 事業採択 学習を進め、多文化を 人と留学生が混在する せるとしている。 理解する能力を向上さ 10人程度のグループで との共修・協働による 「長崎学」▽日本企業|生をグローバル人材と 崎の歴史や文化を学ぶ 基盤形成事業」。日本 長崎発グローバル人材 と、新事業は「留学生 1年目に▽語学▽長 万円の補助金が受けら わたって年約6000 文科省から、5年間に ターンシップを行う。 いて学ぶキャリア教育 が求める人材などにつ 峰茂学長は「日本の学 れるという。 科目――を学習。2年 目に県内の企業でイン 代表校の長崎大の片 して育成し、留学生も 採択を受けた。 点」の事業も、同様の 宅がん医療・緩和ケア べる」と強調した。 交流して日本文化を学 日本の学生ときちんと 大、長崎国際大による を担う専門人材育成拠 「多職種協働による在 また、長崎大と県立 【樋口岳大】

2012年10月17日毎日新聞

聞

新

2年(平成24年)10月17日(水)

毎

日

県民フォーラム 在宅医療考える

から、佐世保市三浦町のアル アム長崎」は17日午後2時 在宅医療・福祉コンソーシ 県内の大学などでつくる

一ついて長崎大薬学部の中嶋

(荒木竜樹)

17日佐世保、23日長崎 科などがある三つの大学の 同団体は、看護学科や薬学

専門人材の育成に取り組む。 の概要や構成、取り組みに 宅がん医療、緩和ケアを担う 構成。多職種協働による在 ほか、自治体や医師会などで フォーラムでは、同団体

ら、長崎市茂里町のNCC 長崎事務局(長崎大薬学部内) 宅医療・福祉コンソーシアム &スタジオで開かれる。 電095.819.2460) 申し込み、問い合わせは在 第2回は23日午後1時か

カスSASEBOで「考えよ | 幹郎教授が紹介。昭和大歯 | 学部の弘中祥司准教授によ 食べ方を教えます」と題し た特別講演などもある。 る「安全で美味しい楽しい

2013年2月8日長崎新聞

者らが在宅医療を受けるが

ん患者の療養支援について

進事業」の一環。 た「大学間連携共同教育推 シアム長崎」の主催。文部

長崎市内であり、医療関係 科学省から本年度選定され

がんフォーラム」が3日、 ケアをテーマにした「長崎

「在宅医療・福祉コンソー

際大と自治体、県薬剤師会

加。日本緩和医療薬学会代

般市民ら約100人が参 医師や看護師、薬剤師、

長崎大、県立大、長崎国

ラムを開催する。参加無料。 をテーマにした県民フォー う!これからの在宅医療を」 療部看護師長で、緩和ケア であり、看護師や大学教授、した。 療・福祉コンソーシアム長 ケアの在り方をテーマにし一たいのかという患者の個性 題について講演した。 た県民フォーラム(在宅医)を尊重する中でニーズが出 S師らの専門家が現状と課 在宅がん医療・緩和ケア 東京医科大病院の緩和医|者の食事の重要性」、ホー 在宅でのがん医療と緩和一事。どういう状態で過ごし 現状と課題考える てくる。緩和ケアは生活の

は「当事者(患者)が選べ |尾勘一郎さんは「家ですご認定看護師の柏谷優子さん | ク (西彼長与町) 院長の中 る状況をつくることが大一すということ」と題し講演 ム・ホスピス中尾クリニッ の巴美樹さんが「在宅療養 九州女子大栄養学科教授 「選べる状況 細和ケア。に参加しよう - 長崎市茂里町、NOC&スタジオ(荒木勝郎撮影 纒和ケアなどをデーマに誘演があった県民フォーラム 考えよう!これからの在宅医療を 食事の重要性

国際大の地元3大学と自治 ・緩和ケアを担う専門人材 語った。 (河野隆之)は、長崎大と県立大、長崎 種が共同で、在宅が人医療・組みの一体化が重要だ」とした。 (体、県薬剤師会などじの職・おり、県立大の太田博道学)

育成の拠点づくりを進めて

2013年2月26日長崎新聞

緩和ケアの今後考察

長崎で「がんフォー -ラム」



「がん診療の現状と課題

の重要性や、薬剤師が在宅 部になるのでは」と述べた。 用いた)緩和ケアは特別では 医療に関わる意義を強調。 なく、ごく普通の医療の かかる時代。(医療用麻薬を ンター長の芦澤和人氏は 国民の2人に1人ががんに 長崎大学病院がん診療セ

が在るためには」と題し講 域緩和医療の絆として薬局 表理事の加賀谷肇氏は「地 をテーマに講演した。 (東村亮)

2013年3月5日長崎新聞

行する傾向にあるとして、 入院治療から在宅療養へ移 活の質)向上の観点から、

演。がん患者のQOL(生

痛みを和らげる医療用麻薬